

2) 研究における利益相反

私たちはこの研究によって企業からの寄付などの経済的利益を得る可能性があります。しかし、この利益は麻酔・蘇生学分野に属し、個人の利益にはなりません。

この研究計画の変更について分からないことがあった場合には、遠慮なく下記の「問い合わせ・連絡先」までお問い合わせ下さい。また、この研究の概要につきましては下記をご確認ください。

<問い合わせ・連絡先>

岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 麻酔・蘇生学分野

教授：森松 博史

電話：086-235-7327（平日：9時～17時）

Email：morima-h@cc.okayama-u.ac.jp

住所：〒700-8558 岡山市北区鹿田町二丁目5番1号

1. 研究の概要

1) 研究の背景および目的

敗血症は、感染に対する生体防御反応の調節不全が原因で多臓器不全やショックを引き起こす疾患です。その治療法の開発に向けて、世界的規模で活発な研究が続けられています。しかし、現在まで本質的に敗血症を治療できる薬物は発見されていません。また、敗血症患者の状態を評価するマーカーも見つからず、治療の際に症状が快方に向かっているかどうかの判断や、急激な悪化を予測できないことがあります。そのため、敗血症における新規マーカーや治療薬の開発が急務となっています。

我々のこれまでの研究により、敗血症になると血中に存在するタンパクの一つである高ヒスチジン糖タンパク質(HRG)が減少することが分かりました。白血球の一種である好中球を活性化させないようにブレーキの役割を担っているHRGが減少することで、全身で炎症が引き起こされて多臓器不全につながる可能性が考えられます。また、HRG値を測定することで敗血症の診断や重症度・予後の予測を行える可能性が示唆されています。そこで、敗血症とHRG値の時間的な変動の関連性や、病原体別でのHRG値と白血球や血小板などとの関連性を調べます。

2) 予想される医学上の貢献及び研究の意義

提供して頂く血液を解析してHRGを敗血症の新規マーカーとして利用することで、急激に変化する敗血症患者の状態予測が可能となり、迅速に処置を行うことができるようになります。本研究によって得られた成果は、基礎的な研究面での大きな発展とともに、現在まで存在しなかった敗血症の重症度に応じた新規マーカーや新規治療薬が創られる可能性があり、敗血症の検査法や治療法の確立という医学上の貢献がなされることが期待されます。